

作品介绍 『それはかつてあったから』

Story

ブライダルフォトグラファーの相良真は、病で父を亡くした。しかし、葬儀を経ても父への感情をうまく整理できない。父の葬儀から2年後、友人から「友人の父の葬儀の写真撮影」を頼まれる。「新たな葬儀」に向き合おうとする中、相良は父のオンライン葬儀会場を再訪する。そこで、過去の父を知る人からのメッセージを目にし、父の過去の一面を知る。再び父を悼むために、彼はヴァーチャル会場にある父の遺影を見つめ、その人生と遺したものに思いを馳せる。

(映画『それはかつてあったから』公式ウェブサイトより引用)

プログラム

- 14:00 開会挨拶
- 14:05 映画『それはかつてあったから』
(37分)
- 14:45 休憩 (5分間)
- 14:50 講演 瓜生大輔氏／有馬俊氏
(各20分)
- 15:30 質疑応答
- 15:50 閉会挨拶



講師プロフィール



瓜生大輔氏 (本作プロデューサー)

芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科准教授及びコンテクスチュアルデザイン研究室主宰。研究者、デザイナー。専門はHCI(ヒューマン・コンピューター・インタラクション)デザイン、弔い、死者祭祀・供養、故人を偲ぶためのデザイン。デジタル時代における葬送・供養のデザイン研究の世界的第一人者。



有馬俊氏 (本作脚本・監督)

慶應義塾大学サイバー文明研究センター 特任講師。研究者、映像作家。専門は映像制作、デザインフィクション、学習デザイン、リフレクションデザイン。大学在学中から映像制作活動を開始し、企業や大学の研究コンセプトビデオなどの監督を多数務める。